

東アジア・フォーラム（E A F）

第8回年次大会

報告書

2010年10月

東アジア共同体評議会

# 目 次

## 第Ⅰ部：概括報告（東アジア共同体評議会事務局）

1. 概要.....	1
2. 議論の要旨.....	1
(1) 開会式.....	1
(2) 本会議セッション1 .....	2
(3) 分科会1（政府） .....	4
(4) 分科会2（産業） .....	4
(5) 分科会3（学界） .....	5
(6) 本会議セッション2 .....	6
(7) 閉会式.....	6
別添1：第7回「東アジア・フォーラムプログラム .....	7
別添2：第7回「東アジア・フォーラム」出席者リスト.....	10
別添3：“Concept Paper for the Revitalization of the East Asia Forum”.....	15

## 第Ⅱ部：所感報告（日本代表団）

1. 平林博団長.....	17
2. 高畑昭男団員.....	18
3. 矢野卓也団員.....	19

## まえがき

この報告書は、2010年8月25日～27日の3日間にわたりベトナム・ダラットで開催された「東アジア・フォーラム（EAF）」の第8回年次大会の議論を取りまとめたものである。

EAFは、2002年のAPT首脳会議で設置が決定されたAPT各国の産官学代表による年1回の意見交換会である。EAFは、第1回が2003年にソウルで開催されて以来、2004年にクアラルンプール、2005年に北京、2006年にカンボジア・シエムリアップ、2007年に東京、2008年にラオス・ルアンプラバン、2009年に韓国・ソウルの7つの大会を経て、今回はその第8回となった。当評議会は、EAFの日本代表（ナショナル・フォーカル・ポイント）である日本国際フォーラムより業務委託を受けて、今次大会に日本代表団を派遣した。

この報告書は、EAFダラット大会の内容を、当評議会議員を中心とする関係者に報告することを目的として、作成されたものである。ご参考になれば幸いである。

2010年10月  
東アジア共同体評議会  
議長 伊藤 憲一

## 第 I 部： 概 括 報 告（東アジア共同体評議会事務局）

### 1. 概要

さる 8 月 25 日（水）～27 日（金）の 3 日間にわたりベトナム・ダラットの La Sapinette Hotel Da Lat を会場として「東アジア・フォーラム（E A F）」の第 8 回大会が開催された。E A F とは、A S E A N + 3（A P T）首脳会議の要請により「東アジア・ヴィジョン・グループ（E A V G）」と「東アジア・スタディ・グループ（E A S G）」が提出した報告書の中で提案された国際組織であり、2002 年の A P T 首脳会議で設置が決定され、2003 年に韓国・ソウルで第 1 回が開催されて以来、毎年開催されている A P T 各国の産官学代表の年 1 回の意見交換会である。トラック 1. 5（半官半民）の立場から、東アジア地域統合の動きに対して知的支援を提供している。

今回の会合は、8 月 25 日の H.E. Madam Nguyen Thi Kim Ngan 社会労働傷痍兵大臣主催の歓迎夕食会で幕を開け、翌 26 日は、「東アジアにおける地域統合強化と共同体構築のための連結性強化（Enhancing Connectivity for Greater Regional Integration and Community Building in East Asia）」の全体テーマのもと、午前の「本会議セッション 1」が開催され、その後「産」、「官」、「学」の 3 つの分科会が同時並行で開催され、翌 27 日は、「本会議セッション 2」で上記 3 つの分科会の議論が総括され、幕を閉じた（プログラムについては別添 1 を参照）。

A S E A N + 3 の 13 カ国および A S E A N 事務局から総勢 56 名の産官学の代表者が出席し、日本からは、山田滝男 A S E A N 担当大使など 4 名が出席した。

E A F の運営にあたっては、各国ごとにその「ナショナル・フォーカル・ポイント（N F P）」が設置されているが、当評議会は日本の N F P である日本国際フォーラムから委託を受けて実質的に日本を代表する活動をしており、当評議会から平林博常任副議長（日本国際フォーラム副理事長）高畑昭男産経新聞論説副委員長、矢野卓也当評議会事務局長が出席した（各国出席者については別添 2 を参照）。

なお、来年の次回会合については、北京で開催されることとなった。

### 2. 議論の要旨

#### （1）開会式

冒頭、Nguyen Thi Kim Ngan ベトナム社会労働傷痍兵大臣より「東アジアは更なる経済的協力を強めるだけでなく、2015 年までに、政治的安全保障、経済、社会文化、の 3 つの分野を柱とする ASEAN 共同体をつくり、東アジアの連結性強化の契機となることを目指している。開発ギャップ、不完全な社会インフラや文化的相違などの問題があるが、人材の育成や交流の促進などを通じて、地域のアイデンティティを高め、各国間の社会インフラの開発、貿易や投資、人々の流動性を促進する。ASEAN は現在 Master Plan on ASEAN Connectivity という文書を起草しており、ASEAN の運輸交通網や通信メデ

ィアの開発を推進しようとしているが、今後 15-20 年のあいだに、東アジアが ASEAN を中心に発展した社会基盤を持つ高い連結性をもつ地域となることを期待したい」との開幕挨拶があった。

## (2) 本会議セッション 1

中国、日本、韓国、インドネシア、ブルネイ、カンボジア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイおよび ASEAN 事務局の代表からそれぞれつぎのような国別報告が行われた。

### (イ) Wang Yingfan 中国駐ベトナム大使

世界経済が回復する中、東アジア諸国は地域協力を金融危機の対策より開発模型の変形へと移り変わるため、様々な連結が重要である。交通機関、社会基盤の連結を促進するため、Master Plan への協力が必要である。また、貿易や投資を促進し、東アジアの FTA を発展させる。チェンマイ・イニシアティブ体制を地域の流動に協力させ、財政や金融の連結を目指す。安定した経済発展のため、環境の保護や新たな資源の開発において科学や技術の連結が必要である。

### (ロ) 平林博 日本国際フォーラム副理事長、東アジア共同体評議会常任副議長

政府の規制や法律の緩和を通じた貿易と投資の自由化やプライベートセクターの連結性強化を促進させることが必要である。ビジネス界の知的資源や財政的基盤を導入しモノやヒトのより高い連結性の早期実現が重要である。ASEAN は既に「+3」の北東アジア諸国との連携が強化されているが、モノ、制度、ヒトの連結性を促進することにより、東アジアがさらに北アジアや南アジア、インド亜大陸とも連結し共に発展していくことを目指すべきだ。

### (ハ) Lee Kyu-hyung 韓国外務通商省元事務次官

東アジア地域の平和、繁栄と進歩のため、この地域の統合に向けたさらなる努力が必要であるが、その努力は ASEAN のみでなく、ASEAN+3 の枠組みでも推進される必要がある。韓国は社会的インフラや ICT の基盤建設を支援し、ASEAN 諸国間の開発ギャップを狭め、更なる ASEAN 内の統合へつなげるべく貢献している。また、同時に、この地域の統合推進のためには、政・学・産の協力が必要であるところ、韓国政府としては東アジア・フォーラムのこれまでの貢献を高く評価するとともに、更なる発展に期待したい。

### (ニ) Djauhari Oratmangun インドネシア外務省 ASEAN 協力局長

東アジア地域統合は ASEAN 間の経済協力より始まったが、FTA は東アジアの更なる統合の基盤となる。ASEAN についていえば、各国内の連結性強化は地域全体の連結性強化につながるため、東南アジア大陸部と同島嶼部の連結性を強化する必要がある。この連結性の強化は ASEAN 全体の貿易、投資や観光の発展を促進し、ASEAN のグローバルな競争力を高めることに貢献する。ASEAN は ASEAN 共同体形成を通じて、域外世界との統合や東アジア経済開発の中心となることを目指すべきだ。

(ホ) Pengiran Danto Paduka Osman Patra ブルネイ外務通商省事務次官

ASEAN は Master Plan を通して、空路、陸路、海路のいずれによっても連結されることを目指している。ブルネイの立場としては、歴史的かつ地理的観点から、特に海路の連結性強化に関心がある。ASEAN は完全な競争力の備えた海上交通システムによって空路や陸路の連結を補完することができるだろう。また、ASEAN は、中国、日本、韓国との FTA を締結し、より広大な地域社会の統合や強化へつなげるべきだ。

(ヘ) Soeung Rathchavy カンボジア外務国際協力省 ASEAN 高級実務者会合リーダー

「ASEAN 連結性に関するマスタープラン」が来る第 17 回 ASEAN 首脳会議で採択されること、今次 EAF のテーマは時宜を得たものである。この「マスタープラン」実現のためには、達成程度、達成期日を明確に定め着実に実現へと近づける必要がある。ASEAN 内部での連結性強化は、域内の交通網、インフラ網の整備、開発ギャップの軽減に貢献するところ大であるが、この過程における「+3」諸国の支援は不可欠であり、期待される。

(ト) Alounkeo Kittikhoun ラオス外務副大臣

東アジアの連結性を高めるためには、地域統合や共同体づくりだけでなく、個別の国の発展も重要である。個別の国や ASEAN としての一つの連結性強化には「+3」の国を含め、外部からの協力が不可欠である。ラオスは ASEAN+3 の援助をもとに、更なる社会基盤や制度上、人材の育成による連結への努力が要している。連結性強化への協力の活動やプロジェクトを促進するためには、後発の発展途上国が遅れをとらないよう特別な配慮をすべきである。この東アジア・フォーラムが、その点に関する具体的な提言を生み出すことに期待したい。

(チ) Chuah Teong Ban マレーシア外務省 ASEAN 局参事官

ASEAN のほとんどの地域では物質的な社会基盤が整備されておらず、東アジアの比較的発展の進んだ国からの援助を期待したい。東アジアの市場は未だ完全に統合されていないため、私的企業は国家間の境界線に活動を阻まれている。東アジア地域全体を包括する事業を可能とし、域内ネットワークづくりを促進し、中央銀行や金融機関等の制度的な連結性強化を提唱したい。また、文化的・社会的な交流に加え、人の交流や移動を重視する東アジア共同体は東アジア境内の人口の自由移動を促進する一方、国際犯罪などの社会問題にも注意したい。

(リ) Khin Maung Soe ミャンマー駐ベトナム大使

貿易、投資や金融における協力を国の大小にかかわらず拡大すべきである。更に、国際問題となる非伝統的な安全保障問題や、伝染病の流行、自然災害などには更なる協力と政策協調が求められる。また、環境協力や文化交流を促進させ、環境保護や人対人の興隆を促進すべきだ。さらに、東アジア・フォーラムを中心に、ASEAN+3 の協力強化を通して、東アジア共同体づくりのより具体的な指針を展開することが必要である。

(ヌ) Lorna Dig-Dino フィリピン国立教育者学院所長

東アジア・フォーラムには、個々の市民が東アジア共同体づくりに参加することによってもたらされるシナジー効果の生み出すための具体策を考え出すことを期待する。その際、市民にはどんな性質や価値観が必要となるか、教育的な面では地域統合においてどのような貢献ももたらすのかを考慮する必要がある、2015年までに人の交流によるASEAN共同体づくりは東アジア市民全体の努力が必要である。

(ル) Kwok Fook Seng シンガポール外務省 ASEAN シンガポール局長

東アジアは経済発展の分野において、他の地域の良い見本となっている。ASEAN 連結性イニシアティブは、経済発展という共通の理念と目標を更なる経済統合へ導いている。Master Plan に関しては、政治分野での統合は経済分野での統合より困難であり、ASEAN 内でさえ複雑である。連結性が強化しされた東アジア共同体の形成のためには、各国間の外交を通じて政経両分野を密接にバランスをとることが要求される。また、整備された交通手段、社会基盤や ICT の連結性はより多いモノやサービスの流れをもたらし、我々の経済を含め、全体を共同体づくりという目標へと導く。共同体意識が強化すればするほど、地域の平和と安全保障の協力は促進され、平和と繁栄という共通な目的の元に、人々を結び、東アジア共同体づくりは進展するだろう。

(ロ) Itti Ditbanjong タイ外務省 ASEAN 局長

ASEAN 内部や ASEAN+3 の枠組みにおけるより深い地域統合の実現や ASEAN 共同対および東アジア共同体形成を促進するには、連結性強化が不可欠である。地域の個々の市民が責任感をもって、共通の利益を追求する時にのみそれが実現可能となる。そのため、教育を通じた ASEAN+3 の間の社会的や文化的理解を深め、人対人の連結性強化が東アジア全体の共同体形成につながっていくだろう。

(リ) Pipoppinyo Somsak ASEAN 事務局金融インフラ総局長

「ASEAN 連結性に関するマスタープラン」は第17回 ASEAN 首脳会議で採択される予定であるところ、現在、その実行計画や資源活用に関する事務レベルの調整が進行している。

### (3) 分科会1 (政府)

分科会1 (政府) では、「東アジア地域の連結性促進と政府の役割」を議題とし、インドネシア代表 (Djauhari Oratmangun インドネシア外務省 ASEAN 協力局長) が議長を務め、中国 (Wang Yingfan 駐ベトナム大使)、ラオス (Alounkeo Kittikhoun 外務副大臣)、日本 (山田滝男 ASEAN 担当大使)、シンガポール (Kwok Fook Seng 外務省 ASEAN シンガポール局長) および ASEAN 事務局 (Pipoppinyo Somsak 金融インフラ総局長) の各代表より基調報告がなされた。本分科会で議論された概要は以下の通りである。

(イ) ASEAN 各国の連携に対する政治的意志は、2009年のASEAN統合についてのASEAN首脳声明に表れている。このプロセスの結果として、2010年10月のASEANサミットでASEAN連携のマスタープランが作成される。

- (ロ) この政治的意志は、十月またそれ以降のサミットなどを通してASEAN 対話各国やその他政府機関によるマスタープランの実行によって保持される。
- (ハ) ASEANメンバー各国は、自国内の政府機関や政治系団体がマスタープランを理解し、それを支えるプロジェクトを開発することを促すべきである。
- (ニ) このコーディネーションプロセスはASEAN地域結合の実現に向け、ASEANメンバー各国間でも活発に行われるべきである。
- (ホ) ASEAN連携の目標や優先順位を明白にするため、ASEANとASEAN対話国の連携が必要とされる。
- (ヘ) ASEANの連結性プランを実現するためには関係事業・団体全ての同意と参加を得ることが不可欠であり、ASEAN連携プランを広く宣伝することが必要である。
- (ト) ASEAN連携マスタープランを国内の開発と統合することにより、プラン実行を促進し、内容の重複を防ぐことができる。
- (チ) マスタープラン実現のため、官民の協力、また、新旧両方の資源調達法を駆使するべきである。しかし投資を得るためにも政府は責任を持って行動し、透明性と行動の有効性を随時証明するべきである。
- (リ) 政府は、組織内の連携を促す政策を作成するうえで大きな役目を担うべきである。貿易、投資、またASEAN各国の国民同士のつながりを強化し、ASEAN内の連携を強化するべきだ。
- (ヌ) また、正しい政策が行われ、他のメンバー国が政策を作成できるように、政府はASEAN連携プランの実施を監視・評価するべきである。
- (ル) ASEANとASEAN対話各国間の連携が強化されたことによりASEAN地域が活発化したという結論に達し、これを今後も促進することで合意した。また、韓国が東アジア・フォーラムの再活性化を提案し、参加国からはこれについて様々な意見が述べられ、これらの意見をふまえて韓国より、今後改めてこの提案について再提案されることになった。

#### (4) 分科会2 (産業)

分科会2 (産業) では、「東アジアの連結性促進における官民協力パートナーシップ」を議題とし、日本代表(高畑昭男産経新聞論説副委員長)を議長として、ベトナム(Nguyen Minh Tuan ベトナム商工会議所副所長)、カンボジア(Pan Sorasak カンボジア商業省政務次官)、韓国(Lee Seung-cheol 韓国産業連盟事務総長)、タイ(Limprana Visit タイ産業連盟副会長)の各代表より基調報告がなされた。本分科会で議論された概要は以下の通りである。

- (イ) インフラ投資について、東アジアの持続可能な成長のためには、電気、運輸、通信等の分野において、引き続き強化されるべきである。金融危機によって、公共投資が低迷したことで、PPPはインフラ投資の分野においても強化すべきである。
- (ロ) PPPの功罪について、PPPは民間部門においてプラスの利益をもたらすものと期



待されるが、同意に投資リスクも孕んでいることに留意すべきだ。したがって、PPPの推進にあたっては、責任、利益、リスクを民間セクターと公的セクターがいかに分担すべきかという明確な千引きが重要となる。

(ハ) キャパシティ・ビルディング (CP) について、人材開発、技術開発支援、等における CP は、途上国における PPP の促進に不可欠である。「+3」諸国はしたがって、これらの途上国に対し、CP 促進の支援を怠るべきではない。

(ニ) 農業生産の促進について、東アジアは世界最大の米生産地域であり、「世界の食料バスケット」と呼ばれている。食料市場がグローバル化されている今日、PPP を通じてこの地域の農業生産を促進し強化することは、この地域を世界的な食料市場における競争や食料安全保障における貢献に有利にすることとなるだろう。他方、地域レベルでの食料安全保障も同じく重要であることはいままでもない。

(ホ) 連結性の負の効果について、連結性の促進は相当程度の正の効果を地域にもたらすものと期待されるが、食の安全性の問題や感染症の問題などでは連結性の促進は負の効果をもたらすものとなる。PPP は、このような強化された連結性にもたらされる負の効果に対処する際有用なアプローチとなる。

(ヘ) 上記の認識をふまえ本部会は、①アジア開発銀行が提唱する「アジア・インフラ基金」の早期成立、およびその基金の運営主体と運営方法の確立、②東アジアビジネス委員会 (EABC) のウェブサイトの運営を通じたオンライン市場の設営、③技術開発を必要とする主体に対する技術的ノウハウを結集させた貯蔵庫的設備の設営、④米生産国ならびに米輸入国の情報共有ならびに相互扶助のための国際組織の設立、の4項目にわたる政策提言を総会に提出した。

### (5) 分科会 3 (学界)

分科会 3 (学界) では、「連結性促進の促進と東アジア地域アイデンティティ」を議題とし、マレーシア代表 (Mohd Yusof ASEAN 世界情勢研究所所長) を議長として、ブルネイ (Menidun Yahkup ブルネイ情報コミュニケーション産業局局長)、中国 (Qin Yaqing 中国外交大学副学長)、韓国 (Shin Yoon-hwan 西江大学教授)、ミャンマー (Sondar Oo ミャンマー文部省)、フィリピン (Basilio Enrico Reid 財団会長) の各代表より基調報告がなされた。本分科会で議論された概要は以下の通りである。

(イ) 4人の基調報告者からは、東アジア地域の連結性強化とアイデンティティ構築を達成するにあたって、①採択された決議案などを行動に移すことにたいする国家の政治的意志の強化、②ASEAN諸国間における国内開発速度の違いによるギャップを埋める努力の強化、③インフラ開発の制度化を促進、④ASEAN連携マスタープランにプラス3諸国も加えること、⑤地域統合促進において各国有識者により大きな役目を付与する、⑥東アジア共同対形成促進に基づくアジア通貨基金やアジア単一通貨、東アジア経済ゾーンなどの経済提案の再検討、⑦フィリピンのRO-ROモデルを使用した東アジア地域の海上での連結性強化、等が提案された。

(ロ) また、地域アイデンティティの構築については、①ASEAN地域の国民同士のつながりの強化を目的とした、若者を対象とする教育制度の作成、②文化促進事業につき、地域文化の多様性を焦点とすること、③東アジア地域のアイデンティティを明確にすること、④時流に合わせて東アジア共同体形成の計画内容を刷新すること、等が提案された。

(ハ) また、連結性強化と地域アイデンティティを促進のための教育については、①「東アジア」という地域概念を小学校から大学レベルまでの教育内容に加えること、②域内での地域統合やアイデンティティについての研究データの交換を促進すること、③地域内での教員や学生の交換を促進すること、④地域内における単位移行を標準化し、システム化すること、⑤地域統合やアイデンティティの研究を支援する奨学金制度の作成すること、⑥若者を対象とした文化交流にスポーツと芸術を加えること、⑦地域市場についての教育プログラムの作成、⑧ASEAN+3文部大臣会議、ASEAN+3大学ネットワーク、ASEAN+3大学院会議の支援、などが提案された。

(ニ) また、議論中に出された課題としては、連結性強化に関連しては、フィリピンのRO-RO提案を実現するにあたって、外国人国内航空運送の禁止が妨げとなるのではないかと指摘がなされ、地域アイデンティティ構築に関連しては、①地域対話と連携における単一言語の不在、②通訳・翻訳の高コスト、③共同教育プロジェクトに対する支援の少なさ、④都市部と農村部の開発の度合いの違い、⑤地域内の高等教育組織間における単位移行システムの不在、⑥研究と政策作りにおける政府と学界の分断、⑦研究課題や方法の技術的側面、等の指摘がなされた。

## (6) 本会議セッション2

各分科会の議長より、それぞれ分科会における議論の総括がなされた。

## (7) 閉会式

Pham Quang Vinh ベトナム外務副大臣より、「EAFは、東アジア共同体構築に向けたASEAN+3の『産』、『官』、『学』の代表が一斉に集う貴重な機会であり、今後とも関係各国の参加と協力に期待したい。今次EAFの成果はこの地域のさらなる結束と統合に資するところ大であろう」の閉幕挨拶があった。

別添1：「第8回『東アジア・フォーラム』プログラム」

別添2：「第8回『東アジア・フォーラム』出席者リスト」

別添3：“Concept Paper for the Revitalization of the East Asia Forum”

**EIGHTH EAST ASIA FORUM**  
**Da Lat, Viet Nam, 25-27 August 2010**

---

**PROGRAMME**

**Wednesday, 25 August 2010**

Morning/Afternoon

**Arrival of Delegates**

16:00 – 18:00

**Registration**

*Venue: EAF-8 Secretariat, Level 4, La Sapinette Hotel, Da Lat*

18:30 – 20:30

**Welcome Dinner**

Guest of Honour: H.E. Madam Nguyen Thi Kim Ngan, Minister of Labour, War Invalids and Social Affairs of Viet Nam

*Venue: La Thong Restaurant, Lobby Level, La Sapinette Hotel, Da Lat*

*Attire: Smart Casual/Batik*

**Thursday, 26 August 2010**

08:30 – 09:00

**Registration (continued)**

*Venue: Ballroom 1 Foyer, Level 4, La Sapinette Hotel, Da Lat*

09:00 – 09:30

**Opening Ceremony**

*Venue: Ballroom 1, Level 4, La Sapinette Hotel, Da Lat*

*Attire: Lounge Suit/Day Dress*

Theme: ***“Enhancing Connectivity for Greater Regional Integration and Community Building in East Asia”***

- Opening Remarks by H.E. Madam Nguyen Thi Kim Ngan, Minister of Labour, War Invalids and Social Affairs of Viet Nam

- Group Photo: Heads of Delegation with H.E. Madam Nguyen Thi Kim Ngan.

09:30 – 09:45

**Coffee Break**

09:45 – 12:00

**First Plenary Session**

*Venue: Ballroom 1, Level 4, La Sapinette Hotel, Da Lat*

*Attire: Lounge Suit/Day Dress*

- Chairperson's Remarks
- Statement by Representative of China (7 min.)
- Statement by Representative of Japan (7 min.)
- Statement by Representative of the ROK (7 min.)
- Statement by Representative of Indonesia (7 min.)
- Statement by Representative of Brunei Darussalam (7 min.)
- Statement by Representative of Cambodia (7 min.)
- Statement by Representative of Lao PDR (7 min.)
- Statement by Representative of Malaysia (7 min.)
- Statement by Representative of Myanmar (7 min.)
- Statement by Representative of the Philippines (7 min.)
- Statement by Representative of Singapore (7 min.)
- Statement by Representative of Thailand (7 min.)
- Statement by Representative of ASEAN Secretariat (7 min.)

12:00 – 13:30

**Lunch**

*Venue: La Thong Restaurant, Lobby Level, La Sapinette Hotel, Da Lat*

13:30 – 15:00

**Concurrent Group Discussions of Government, Business and Academic Circles**

**Session 1 (Government Circle):**

- Topic: *Enhancing Connectivity in East Asia and the Role of Government*
- Moderator: *Indonesia*
- Panel Speakers: *China, Laos, Japan, Singapore, ASEC*

Venue: Ballroom 1, Level 4, La Sapinette Hotel, Da Lat

Attire: Lounge Suit/Day Dress

**Session 2 (Academic Circle):**

- Topic: *Enhancing Connectivity and Regional Identity in East Asia*

- Moderator: *Malaysia*

- Panel Speakers: *Brunei, China, ROK, Myanmar, Philippines*

Venue: Ballroom 2, Level 4, La Sapinette Hotel, Da Lat

Attire: Lounge Suit/Day Dress

**Session 3 (Business Circle):**

- Topic: *Public-Private Partnership in Enhancing Connectivity in East Asia*

- Moderator: *Japan*

- Panel Speakers: *Cambodia, ROK, Thailand, Viet Nam*

Venue: Prenn Room, Level 4, La Sapinette Hotel, Da Lat

Attire: Lounge Suit/Day Dress

15:00 – 15:15

**Coffee Break**

15:15 – 17:00

**Concurrent Group Discussions of Government, Business and Academic Circles** (*continued*)

18:30 – 20:30

Dinner hosted by H.E. Mr. Pham Quang Vinh, Assistant Minister of Foreign Affairs of Viet Nam

Venue: *Ngoc Lan Hotel, Da Lat (transportation will be provided)*

Attire: *Smart Casual/Batik*

**Friday, 27 August 2010**

09:00 – 11:00

**Second Plenary Session with Presentation of**

**Group Discussion Outcomes, Open Discussion**

*Venue: Ballroom 1, Level 4, La Sapinette Hotel, Da Lat*

*Attire: Lounge Suit/Day Dress*

11:00 – 11:15

**Coffee Break**

11:15 – 11:45

**Closing Ceremony**

*Venue: Ballroom 1, Level 4, La Sapinette Hotel, Da Lat*

*Attire: Lounge Suit/Day Dress*

12:00

**Lunch**

Afternoon

**Sight-seeing and/or Departure of Delegates**

*Attire: Casual/Sport Active*

**Saturday, 28 August 2010**

Morning/Afternoon

**Departure of Delegates**

## LIST OF PARTICIPANTS

# THE 8<sup>th</sup> EAST ASIA FORUM

Da Lat, Viet Nam, 25-27 August 2010

### □ Brunei

- Patra Pengiran Dato Osman      Permanent Secretary, MOFAT
- Haliluddin Zamiah              Research Officer , MOFAT
- Menudin Yahkup                 Chief Executive, AITI

### □ Cambodia

- Soeung RathChavy                SOM Leader, MOFA
- Neth Barom                        Vice President, Royal Academy
- Pan Sorasak                        Secretary of State, Ministry of Commerce

### □ China

- Wang Yingfan                      Former Vice Foreign Minister, MOFA
- Qin Yaqing                         Executive Vice President, China Foreign Affairs University
- Chen Min                            Secretary-General, China Council for the Promotion  
of International Trade
- Cheng Ji                             Asian Department, MOFA
- Wang Yong-Chung                Asian Department, MOFA
- Wei Ling                             Deputy Director, China Foreign Affairs University

### □ Indonesia

- Tavares Jose                        Head/ Director, ASEAN Dialogue Partner and Inter  
Region Affairs
- Homan Raymond Atje             Head of Economics Department,  
Centre for Strategic and International Studies
- Sardjana Agus                     Head of Centre for Policy Analysis and Development  
on International Organizations
- Arby R.Ardhya Erlandgga        Deputy Director, MOFA
- Ramadhan Achmad                Delegate, MOFA
- Rohimah Iim                        Delegate, MOFA
- Kusumaningprang Raditya        Delegate, MOFA
- Nurfitriani Sita                     Delegate, MOFA

- Sidabutar Syamsudin Minister Councillor, The Indonesian Embassy

**□ Japan**

- Yamada Takio Ambassador to ASEAN, MOFA  
- Hirabayashi Hiroshi Vice President, The Japan Forum on International Relations  
- Takahata Akio Deputy Chief Editorial Writer, The Sankei Shimbun  
- Yano Takuya Research Coordinator, The Japan Forum on International Relations, Inc

**□ Lao PDR**

- Kittikhoun Alounkeo SOM, MOFA  
- Vannaxay Sonexay Deputy Director of Training Division, Institute of Foreign Affairs  
- Vongxay Daovy Secretary to the delegation, ASEAN Department

**□ Malaysia**

- Chuah Teong-Ban DDG, ASEAN Department  
- Ahmad Mohd-Yusof Principal Fellow and the Director, Institute of ASEAN Studies & Global Affairs

**□ Myanmar**

- Khin Maung-Soe Ambassador  
- Sandar Oo Dr Ministry of Education  
- Tint Swai DDG, ASEAN Department  
- Wai Phyoo Joint Secretary General  
- Ooe Wai-Min Second Secretary

**□ Philippines**

- Dino Lorna Director, Dep of Education, National Educators Academy  
- Basilio Enrico REID Foundation, INC

**□ Singapore**

- Kwok Fook Seng DG  
- Chai Harris Rusdi Desk Officer  
- Chong Catherine East Asian Institute (NUS)



**□ South Korea**

- Lee Kyu-hyung Former Vice Minister, MOFAT
- Lee Seung-cheol Secretary General, The Federation of Korean Industries
- Shin Yoon-hwan Professor, Seogang University
- Park Jae-kyung Director, ASEAN Coop Division
- Choi Munhee Secretary, ASEAN Coop Division
- Kang Jae-Kwon Councillor, Embassy ROK

**□ Thailand**

- Ditbanjong Itti DG, Dep of ASEAN Affairs (Head)
- Thanisawanyangkura Sornprach Vice President of East Asia Academic Cooperation  
- Thailand & Vice
- Phumas Lada First Secretary, MOFA
- Limprana Visit Vice Chairman, Federation of Thai Industries

**□ Vietnam**

- Nguyen Thi Kim Ngan Minister of Ministry of Labour, Invalids and Social Affairs
- Pham Quang Vinh Assistant Minister, Ministry of Foreign Affairs
- Tran Duc Binh Deputy Director-General, ASEAN Department, MOFA
- Nguyen Hung Son Deputy Director, Institute for Foreign Policy  
and Strategic Studies
- Nguyen Minh Tuan PHD, Deputy General-Director, Vietnam Chamber of  
Commerce and Industry (VCCI)
- Phan Minh Giang Director, Division of ASEAN External Relations,  
ASEAN Department, MOFA

**□ ASEAN Secretariat**

- Pipoppinyo Somsak ASEAN Secretariat

## Concept Paper on the Revitalization of the East Asia Forum

---

### I. Background

1. The East Asia Forum (EAF) was established on the recommendation of the Final Report of the East Asia Study Group (EASG) that was approved by the leaders at the 6<sup>th</sup> ASEAN+3 Summit held in Cambodia in November 2002 with an aim to maintaining the momentum for East Asian cooperation towards building an East Asian community and consolidating the ASEAN Plus Three cooperation process.

2. Since its inaugural meeting in the Republic of Korea in December 2003, the EAF has held seven meetings. During the past seven years, the EAF has served as the useful channel for representatives from the governmental, academic, and business circles of the ASEAN Member States, China, Japan, and Korea to exchange diverse perspectives and constructive ideas on regional cooperation and the East Asian community building.

3. Building upon the last discussions for revitalizing the Forum at the 7<sup>th</sup> EAF held on 1-2 September 2009 in Seoul, it is now time to put some of those ideas and measures into action to further reinvigorate the Forum. The following series of measures are designed to ensure the effectiveness of the Forum as a strategic network that enhances cooperation in the East Asian region.

### II. Suggested Measures

#### 4. Structure of EAF decision making and coordination bodies

##### (Joint Coordinating Council)

In principle, the Joint Coordinating Council is the highest decision making body. The Council Meeting will be held once a year on the sidelines of the Plenary Session of the EAF. The Council will consist of representatives, who shall be referred to as "Directors," from government, academia, business, respectively, from the ASEAN+3 countries. One representative from the ASEAN Secretariat may participate in the Council as well.

##### (Steering Committee)

The Steering Committee will carry out the role of Coordinator, making necessary arrangements for the Forum, including preparing a provisional agenda of each Forum and selecting presenters and panelists. The Steering Committee will consist of government officials at the Deputy Director-General or Director level of the Plus Three countries and the Permanent Representatives or Deputy Permanent Representatives of ASEAN Member States. The Steering Committee Meeting will be held twice a year, i.e. back-to-back with the CPR+3 Meeting and on the sidelines of the EAF. The Steering Committee will closely partner with the EABC (East Asia Business Council) and the NEAT (Network of East Asian Think-Thanks) to strengthen cooperation with the private and academic sectors in ASEAN member countries, China, Japan, and Korea.

(Cyber Secretariat)

The Cyber Secretariat website will be established and operated by the Republic of the Korea. Other participating countries of the EAF shall designate their own contact person that will assist the work of the Cyber Secretariat. The Cyber Secretariat will make necessary preparations for holding meetings; draft summary records of the meetings; publish various reports of the meeting; consolidate and publish research materials pertinent to an East Asian community; perform other duties that the Council and the Steering Committee may require.

**5. Modalities**

(Venue)

To ensure coherence and continuity, the venue of the Forum will not alternate from year to year; rather, the annual meeting of the Forum will be held in the Republic of Korea. The expenses for hosting the Forum will be borne by the hosting country. The expenses for travel and accommodation of each participant will be borne by his/her respective country, but special consideration can be made for the CLMV countries.

(Panel Discussion)

Within the broader agenda of the Forum, discussion sessions will be held under different themes, immediately following the Plenary Session or Opening Session. Each session will feature presenter(s) and discussants (panelists). The presenter is expected to give a brief opening presentation to start off a panel discussion. Panelists for each session will be drawn from representatives from government, academia, and business—albeit not based on their respective circle, but rather on their expertise on the subject matter being discussed in each session.

(Participants of the Forum)

While the Forum will seek a balanced representation among the participating countries and across the government, academia, and business, the selection of panelists and other participants of the Forum will not be specified to one representative each from government, academia, business from the ASEAN+3 countries. This latitude in selecting participants of the Forum will enhance the quality of the debates by bringing together a range of viewpoints and expertise on the issues discussed.

(Open Forum)

To further ensure the open platform of the EAF, the panels will speak to a broader audience that includes the general public (preliminary registration required) and the media as well as representatives from government, academia, business from the ASEAN+3 countries. This new format will not only provide participants with the opportunity to discuss on a wide range of issues concerning East Asia cooperation, but also raise public awareness on the most relevant and significant issues affecting the region.

6. **Expanded Membership** \* *subject to further development of EAS expansion.*

With a consensus among the current participating countries of the EAF, it would also be considered to expand the membership to include region's other key players such as Australia, New Zealand, and India.

/END/

## 第 II 部：所感報告

### 1. 平林博団長

8月25日から27日まで、ベトナムのダラット市において行われた第8回EAFについての所感は次の通り。

#### 1. 開催地

今回のEAFは、ホストであるベトナムの心遣いで、中部ベトナムの高原避暑地 Da Lat の瀟洒なホテルで開催された。G8首脳会議やG8シェルパ会合は、Retreat方式と称して大都会から離れた避暑地や観光地で開催されることが多くなっているが、アセアン・プラス・スリーもそのような余裕ができてきたのかとの感がする。EAFやNEATのように自由闊達に意見を交換し、また親睦を深める会議であれば、主催国が自慢のRetreatにて会議を主催することは、大変よいことと思われる。

今回は、初日の晚餐会と次の日の開会式には、労働・戦争障害者・社会問題担当大臣である Nguyen Thi Kim Ngan 女史がハノイからわざわざ来た。最終日の午後は、ベトナム代表団により Da Lat 市内の見学がアレンジされるなど、ホスト側の配慮が目立った。

将来、我が国が主催する番になった場合にも、例えば箱根などで行うことを望みたいが、外務省は予算などを確保できるであろうか？

#### 2. 政府・学界・産業界のコンビネーションの問題点

- (1) EAFは、政府、学界 (Academia)、ビジネスから参加するAPTの中でもユニークな会議であるが、わが山田アセアン大使を除き、政府からの出席者が「大きな顔」をしているのが印象的であった。
- (2) 今回の会議では、初日午前と3日目午前それぞれ全体会議が行われ、全員が出席した。

第1回の全体会議では、日本は私が発言したが、他の国はすべて政府の代表が発言した。私も、会議前から山田アセアン大使に発言を譲りたいと申し述べたが、山田大使は（外務省での年次がはるか上の私に気兼ねしたのか）固辞した。

なお、EAFは自由に発言する場と聞いていたので、私はあらかじめ原稿を用意していたわけではないが、会議の場でほかの発言を聞きながら自分の発言を整理し、発言した。その上で、他の代表案と同様に、後刻、英文スピーチを出席者に配布した。矢野氏の迅速かつ的確な仕事ぶりがあったが可能になったものであり、感謝したい。

- (3) 政府出席者を優遇する点については、歓迎夕食会や2日目のエンターテイメント付きの夕食会において、ベトナム側はヘッドテーブルを用意し、そこには政府代表者が着席した。ここでも、山田大使は私に席を譲ろうとしたが、私は大使の立場を考えて、

固辞した。

しかし、そもそもヘッドテーブルを用意して政府代表のみを特別扱いする必要があるのか、疑問を持つ。

- (4) 上記(2)(3)の次第を見て感じたのは、欧米のこの種の混合会議と異なり、A P Tではまだ「官優位」であり、一種の「後進性」が残っているということである。アセアン諸国、中国の「万事官優位」の傾向や知的交流に関する発展段階を考えれば、やむを得ないことかもしれない。

- (5) 分科会についても問題がある。

3つの分科会は、**Government Circle, Academic Circle, Business Circle** とわかれたが、これでは、わざわざ3つの異なるグループを一緒にして議論するという本来(?)のE A Fの趣旨に反するのではないか?いつも顔を合わせている政府代表だけで分科会を作る意味は特に乏しいであろう。

私からは、第2回の全体会議において、3分科会を作るのであれば、テーマを異にしたうえで、政府、学界、ビジネスの3代表が入り混じった形で分科会に出席する方がよいのではないかとの問題提起を行っておいた。

今回、日本側は、第1分科会は山田大使、第2分科会は私、第3分科会は高畑氏と矢野氏が出席したが、あとから考えると、マスコミで論陣を張る高畑氏が第2分科会、企業の経営(東芝、三井物産、第一三共などの社外取締役)にも関与する私が第3分科会に出席する方が自然であったかもしれない。

なお、高畑氏は、第3分科会のモデレーターをやられたが、矢野氏のよき補佐もあり、3つの分科会報告の中では一番整理された報告を行った。

- (6) なお、ビジネス代表といっても、各国の商工会議所などのビジネス団体からの出席者であり、実際のビジネスを行っている企業関係者は出ていないのが気になった。

### 3. E A F活性化に関する韓国の **Concept Paper** を巡る動き

韓国代表団は、E A Fの活性化のためにいくつかの提案を行った **Concept Paper** を提出した。その要旨は次のとおりである。

#### (1) E A Fの機構

—**Joint Coordinating Council**; 最高の決定機関で、E A Fの全体会議の際に開催。構成は、A P Tの各国から、政府、学界、ビジネス界からの代表者(**Director**)からなり、アセアン事務局も参加可能。

—**Steering Committee**; **Coordinator** 役で、E A Fの会議の準備を行う。+3の局次長ないし課長、及びアセアン諸国の **Permanent Representative** ないしその **Deputy** から構成。

C P R + 3 会合と E A F の機会に、年 2 回開催。

—**Cyber Secretariat**; 韓国が設立し運営。各国は、**Contact Person** を指名。

会議の諸準備、記録やレポートの作成、東アジア共同体に関わる研究材料の収集・発表などを担当。

(2) 開催場所、費用

－E A Fは、持ち回り開催でなく、常に韓国で開催。

－開催費用は韓国負担。ただし旅費は各国負担（C L M V諸国については特別扱い）

(3) 参加者

政府、学界、ビジネス各代表について、各1名に限定せずバランスよく選定。

(4) 会議の公開

会議を一般の人々やマスコミに開放。

(5) メンバーシップ

コンセンサスがあれば、豪州、ニュージーランド、インドの参加を考慮してもよい。

私は、E A Fの活性化には賛成だし、(4)についてはよいと思い、全体会議でもその旨述べたが、特に韓国が常時開催国となるとの点は、アセアン側が賛成しないと予感した。アセアンは、常にドライバーシートにいることに固執するし、さもないと参加国持ち回りが慣例であるからである。

案の定、政府代表が集まった第1分科会では、アセアン側から批判的意見が相次ぎ、結局、韓国はConcept Paperの改訂版を作成することを要請された由。

このような結末になったのは、韓国側がいまだにアセアンのメンタリティーや心理を理解していないことから来ると思うが、韓国のこの点に関するセンシティブィティーの欠如には驚くべきものがある。

## 2. 高畑昭男団員

記録破りの猛暑が続いた8月末の会期だったが、開催地のベトナム南部のリゾート地ダラットは、高原に位置することもあって予想以上に涼しかった。また、会場兼滞在ホテルも新築オープンまもない清潔な施設であり、極めて快適かつ効率よく過ごすことができた。ホスト国ベトナムの会議成功にかける意欲と参加各国に対するホスピタリティを感じた。

会議をふり返って強く印象に残るのは、地域統合にかけるA S E A N諸国のひたむきな期待感と、その一方で政治・安全保障面で自己主張を強める中国の巨大な影にいかに取り組むかというしたたかな知恵のあり様を垣間見る思いがしたことだ。

会議の冒頭、ホスト国ベトナムの女性閣僚は「東アジアの統合はもはや夢ではない」と訴えた。確かにASEANに日中韓を加えた域内13カ国の人口は世界の三分の一を占め、域内総生産（GDP）は24%にあたる。インド、豪州、ニュージーランドも加えれば、数字はさらに膨らむ。「世界の成長センター」とされる東アジアの統合にかかる各国の期待と夢はそれだけ大きいものがあるに違いない。

私は「産」分科会の議長を担当させていただいたが、最初にプレゼンテーションをしたベトナム商工会議所の副会頭は「国民のほぼ半分は30歳以下だが、去年は5%強、今年も7%の経済成長を見込める」と若い国の力を強調した。次いでプレゼンテーションをしたカンボジア元閣僚も「外国投資を呼び込めれば、もっとがんばれるのに」と、外国投資の誘致に極めて意欲的だった。

もちろん仏教のタイ、イスラムのインドネシア、社会主義のベトナムなど、地域諸国の顔は多種多様であり、域内格差や国ごとに異なる諸制度の調和など統合へ向けた課題は山ほどあるといわざるを得ない。2015年までに「政治・安全保障」、「経済」、「社会・文化」を柱とするASEAN共同体を実現するという目標にどれだけ近づけたかどうかは、正直いって誰も確信が持てないのではないかと。

だがそれ以上に、ASEAN諸国の最大の関心と懸案は、何といても自己主張を強める中国の巨大な影にどう対応するかにあるように感じられたことも否定できない。

会議の主題は地域統合へ向けたインフラ整備や人的・物的交流等を通じた地域の「連結性(connectivity)」の促進にあった。そのため、安全保障で各国が衝突するような場面は、もちろんみられなかった。中国代表も極めて友好的、協力的だった。それでも、全体会議の各国の座席順やベトナム代表による会議の進行ぶりなどを眺めていると、中国の存在をどこか意識したような配慮がうかがえるようにも思えた。

会議はわが国の尖閣諸島沖で領海侵犯の中国漁船が検挙された事件の2週間ほど前のことである。しかし、会議の1カ月前にハノイで開かれたASEAN地域フォーラムでは、南シナ海の航行の自由や西沙、南沙諸島をめぐるクリントン米務長官が中国外相と激しいサヤ当てを演じたばかりであった。さらにその3週間後、同じ南シナ海でベトナムは米国と初の合同訓練を行い、米海軍のイージス艦や原子力空母ジョージ・ワシントンが参加して中国を牽制してみせた。

地域の外交筋は「ASEAN、とくにベトナム、タイなどメコン諸国は日米やインドを巻き込んで中国との力の均衡を図り、経済では相互依存関係を築く」というしたたかなゲー



ムを展開している」と解説していた。

会議はたった2日間のことだったが、その前後1カ月あたりの経過を今になって振り返ると、「巨竜」の影に集団で取り組むASEAN諸国の姿勢がある意味で凝縮されていたように感じられる。南シナ海を中心にASEANが展開するゲームの意味を考えると、日本も積極的にこうしたゲームに関与していく必要を痛感する。

「アジア復帰」を昨年宣言したオバマ米政権も日本などに続いてジャカルタにASEAN常駐代表を置くという。日米とASEANが連携することによって、東シナ海と南シナ海の風通しをとともによくしていきたい。

### 3. 矢野卓也団員

小職は、2010年8月25日から27日までベトナム・ダラットで開催されたEAF第8回大会に出席する機会を得たが、EAF大会への出席は、2007年の東京大会を除き、昨年のソウル大会に続いて2回目となったため、主にその比較において

まず、印象に残ったことは、「産」「官」「学」の代表が一堂に会して東アジア共通の課題につき、横断的に議論するというEAFの本来の趣旨が活かされず、昨年のソウル大会同様、議論の中心的舞台となるべき分科会が「産」「官」「学」の縦割りで開催され、各分科会の報告が、最終日の本会議セッションで披露されるだけに留まったことであった。25日、同時並行で開催された「産」「官」「学」の3つの分科会のうち、小職が参加した分科会3（産業）では、「連結性強化のための官民パートナーシップの促進」をテーマとし、我が国の産業界を代表して高畑昭男産経新聞論説副委員長が議長を務められ、基調報告は、ベトナム、カンボジア、韓国、タイの各代表からなされた。昨年と同じく感じたことであるが、「産」の分科会の出席者は、各国代表とも概ね経済団体や関連省庁の役人で占められ（日本代表は、昨年・今年とも企業の代表者）、いささか議論が迫力に欠けていたことは否めない。特にベトナムとタイからの基調報告は、ひたすら国内事情を述べたもので、東アジアの地域秩序への言及はほとんど見られなかった。その中で、韓国代表による基調報告は、さすがプラス3の国代表というべきか、『「アジア・インフラ基金」の立ち上げ』など地域レベルでの具体的な官民パートナーシップの促進策を提唱していたのは救いであった。そのような雑多な基調報告を高畑議長は、見事に地域レベルの議論問題意識にまで引き上げられ、産業界から見た東アジアの地域秩序における具体的な官民パートナーシップのあり方をめぐるアイデアを各参加者から引き出していかれた。

一点、昨年の分科会と比較して、大きく異なった点があった。昨年の分科会では、分科会のセッションが、午前と午後の2つに分けられており、午前のセッションの議論を、長

めの昼食の間に、主催側事務局が「サマリー」と「政策提言」にまとめ上げ、午後のセッションでは、その「サマリー」と「政策提言」の文言を参加者全員でリバイズする時間が設けられていた。そしてそのリバイズされた「サマリー」と「政策提言」が本会議セッションで報告されるという運びとなっていた。それに対し、今年の分科会では、セッションは午後のみで、途中短いコーヒープレイクしかなく、本会議での報告に向けた議論のサマリーはもっぱら議長に一任され、その内容を参加者全員で議論する時間がまったく用意されていなかった。これは、同時平行で開催されていた他の分科会についても言えることだと思う。幸い、「産」の分科会の議論については、高畑議長のお力添えにより、翌日の「本会議」セッションに間に合うかたちで「サマリー」と「政策提言案」が文書として用意され、その内容も本会議セッションの議長からも高い評価を得ることができたが、他方「学」の分科会については、そこまでの準備がままならなかったのか、配布文書なしで口頭報告がなされ、内容のフォローも困難であった。「官」の分科会はさすがに「サマリー」の席上配布をしていた。やはり、昨年のスタイルに乗っ取り、分科会の提出する「サマリー」を参加者全員で議論しリバイズする機会の確保は不可欠であろう。

ホテル、食事、その他各種エンターテインメントなど、ベトナム側がホスピタリティに力を入れていたことには大いに感謝し、学ぶべきところが多いものの、肝心の会議の開催形式については、上記のように改善の余地があることは否めない。今後、いかにEAF本来の目的、すなわちに「産」「官」「学」の代表が一堂に会して東アジア共通の課題につき、横断的に議論する、という目的に合致した制度的改善をするか、関係各国ともに積極的に検討する必要があると考えられる。

CC-J-IV-0017



## **東アジア共同体評議会**

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-17-12-1301

[Tel] 03-3584-2193 [Fax] 03-3505-4406

[URL] <http://www.ceac.jp> [Email] [ceac@ceac.jp](mailto:ceac@ceac.jp)